

**和歌山大学の学生を対象とした
就活に関するヒアリング調査
報告書**

**(和歌山県内大学卒業生等の就職先&県内企業
の需要に関する調査研究)**

令和6年3月

和歌山大学経済学部

本庄麻美子・岡田真理子

<目 次>

1. 調査概要.....	1
(1) 調査背景と目的.....	1
(2) 調査対象と方法.....	1
(3) 調査項目.....	1
(4) 実施状況.....	2
2. 調査結果.....	3
(1) 属性.....	3
(2) 就職活動における情報収集について.....	4
(3) 就職活動の軸について.....	6
(4) 和歌山県で働くことについて.....	8
3. 考察・提言.....	12
(1) 考察.....	12
(2) 提言.....	13
4. 参考資料.....	14

※報告書の見方

本報告書では、県内在住県内就職者、県内在住県外就職者の比較を基本として作成している。ヒアリングの中では、県外在住県内就職者の属性もあるが、サンプル数が3と少ない。そのため、報告書の結果概要、総括では触れていないが、参考までに対応分析、共起ネットワークには掲載している。

対応分析は、セグメント（属性）と回答内容の特徴を散布図として可視化することができるという特徴がある。原点に近い単語は全回答者が満遍なく挙げているもの、原点から遠い単語は特定のセグメントに特徴的なものとして捉えることができる。

共起ネットワークは、単語の関連性を可視化することができるものである。出現頻度の高い表現の把握や文全体の趣旨の理解ができるという特徴がある。

1. 調査概要

(1) 調査背景と目的

和歌山県は日本の中でも人口減少が顕著であり、高校卒業時点での人口流出率が極めて高く、他府県の大学等への進学者が卒業後に和歌山県に戻らないことが大きな課題となっている。また、和歌山県内唯一の国立大学である和歌山大学においても、卒業後の移動パターンは入学時の和歌山県出身者が32.1%にも関わらず、和歌山県内就職者は全体の22.7%と9.4ポイント低くなっていることが明らかになっている¹（田代 2017）。このような背景もあり、和歌山大学では、2015年度よりCOC+事業として「わかやまの未来を切り拓く若者を育む“紀の国大学”」を実施してきた。「わかやまの未来を切り拓く若者」を育成することを目的として、教育プログラム「わかやま未来学副専攻」が設置され、和歌山県内の就職率を増やすことを目標の1つとして掲げてきた。しかしながら、和歌山県内の「民間企業就職者」に着目すると、2018年度77名（10.0%）、2019年度69名（9.5%）であったが、2020年度65名（8.7%）、2021年度69名（9.2%）、2022年度57名（8.5%）と減少傾向にある。

地元志向に着目した研究は多くあるが、和歌山県出身者が「地元」と認識する概念は大阪府も包括される（マイナビ 2022）ため、地元志向という切り口で検証することは難しい。また、全国はもちろんのこと、それぞれの都道府県（青森、山形、兵庫、鳥取、山口、鹿児島など）を取り上げ調査が行われているが、和歌山県特有の課題に着目したものはほとんど見当たらない。

そこで、本調査では、和歌山大学生と和歌山県内民間企業のマッチングを促進するためにはどうすればいいか、また、雇用のミスマッチを解消し定着を促進するためにはどうすればいいかを検討するために、和歌山大学最終学年学生24名への質的調査により、まず、就職活動や進路決定プロセスについて明らかにすることを目的としている。

本調査は和歌山県の委託を受け、「和歌山県内大学卒業生等の就職先&県内企業の需要に関する調査研究」の一環として実施したものである。

(2) 調査対象と方法

和歌山大学2022年3月/2023年3月に卒業を控えた進路決定（就職を選択）学生を対象とした。学生へメール等により調査依頼を行い、承諾があった学生に対して行った。

時期は2022年2~3月もしくは2023年2~3月に実施した。対面もしくはオンラインで半構造化インタビューを実施した（所要時間：約2時間）。調査対象者に対して事前に主旨説明を行ったのち、対象者の了承を得てインタビューを録音（録画）し、逐語録をテキストデータにおこした。

県内在住県内就職者、県内在住県外就職者、県外在住県内就職者の3グループに分けてKH Coder 3.Beta.03i(樋口 2020)を利用し、対応分析や共起ネットワークで特徴的なキーワードを抽出し、検証する。

(3) 調査項目

主に以下の項目についてヒアリング調査を実施した。

- 〔Ⅰ〕生まれ育った環境について
- 〔Ⅱ〕働くこと・仕事についての意識、大学までの進路選択について
- 〔Ⅲ〕就職活動について
- 〔Ⅳ〕最終的な進路決定理由について
- 〔Ⅴ〕和歌山県で働くことについて

¹ 2012年度および2014年度に卒業した全1,354名のデータに基づく

(4) 実施状況

インタビュー対象者は24名であった。

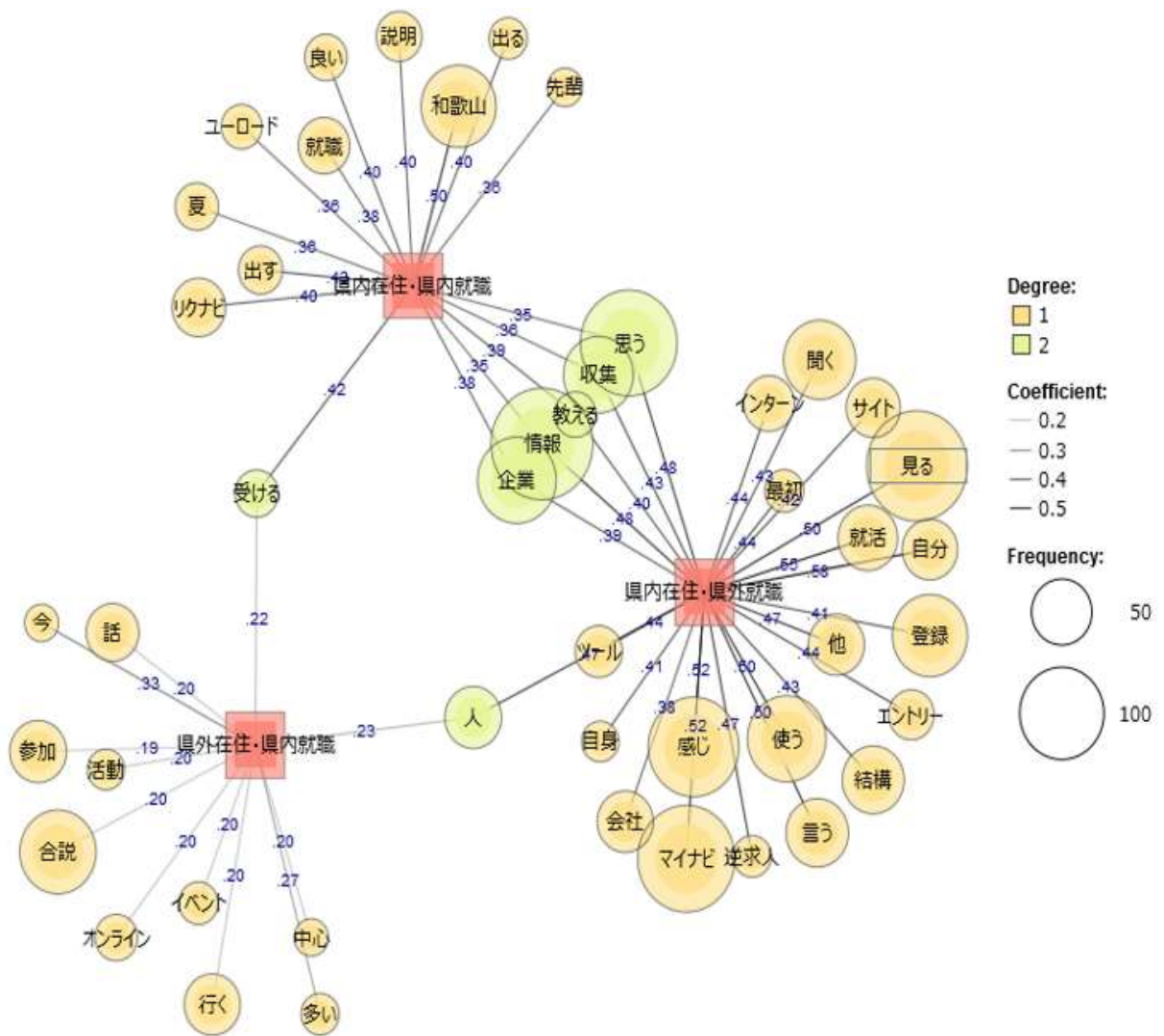
2. 調査結果

(1) 属性

- インタビュー対象者24名のうち、県内在住県内就職者9名、県内在住県外就職者12名、県外在住県内就職者3名であった。
- 県内在住者は、紀北地域（和歌山市・海南市・岩出市・橋本市・紀の川市等）のみ21名、県外在住者（大阪府・兵庫県）は3名であった。
- 文系（経済学部・観光学部）が18名、理系（システム工学部）が6名であった。

表1 所属 [n=24]

	県内在住	県内就職	県外就職	業種	職種	ヒアリング日	ヒアリング時間	面談形式
学生A	○	○		サービス	事務	2022/2/2	10:00-12:00	対面
学生B		○		食品	営業	2022/2/10	10:00-12:00	対面
学生C	○	○		サービス	サービス	2022/2/18	10:00-12:00	オンライン
学生D	○	○		金融	—	2022/2/18	13:00-15:00	オンライン
学生E	○		○	マスコミ	制作	2022/2/24	9:45-11:45	オンライン
学生F	○		○	紙・パルプ	事務	2022/3/1	10:00-12:00	オンライン
学生G	○		○	その他製品	営業	2022/3/2	10:00-12:00	オンライン
学生H	○		○	住宅	事務	2022/3/2	13:00-15:00	オンライン
学生I	○		○	電機	営業	2022/3/4	15:00-17:00	オンライン
学生J	○	○		金融	営業	2022/3/8	10:00-12:00	オンライン
学生K	○		○	住宅	事務	2022/3/9	13:00-15:00	オンライン
学生L	○	○		金融	営業	2023/2/10	10:00-12:00	オンライン
学生M	○		○	出版	事務	2023/2/10	12:30-14:30	オンライン
学生N	○	○		不動産	管理	2023/2/15	10:00-12:00	対面
学生O	○		○	金融	営業	2023/2/15	14:00-16:00	オンライン
学生P	○	○		製造	—	2023/3/1	10:00-12:00	オンライン
学生Q	○		○	税理士事務所	事務	2023/3/1	13:00-15:00	オンライン
学生R	○		○	広告	—	2023/3/8	10:00-12:00	オンライン
学生S	○	○		製造	技術	2023/3/8	13:00-15:00	オンライン
学生T		○		情報通信	技術	2023/3/9	13:00-15:00	オンライン
学生U		○		流通	—	2023/3/7	17:00-19:00	オンライン
学生V	○		○	情報通信	技術	2023/3/8	16:00-18:00	オンライン
学生W	○		○	情報通信	技術	2023/3/9	10:30-12:30	オンライン
学生Z	○	○		情報通信	技術	2023/3/14	16:30-18:30	オンライン



注) 最小出現数 : 15 採用語句 : 71

図2 学生の情報収集の仕方についての共起ネットワーク

◇県内在住県内就職者の語り（抜粋）

・和歌山に特化したそういう(ワンキャリアみたいな)口コミサイトとかあったらいいなーって思いました。

・父親に相談した時には「マイナビに登録しないような企業、お金を払ってマイナビに登録してそこから情報を出してくれている企業はある程度安心できるけど、そうじゃない企業って何があるか分からないんじゃない」って言われて、ちょっと怖いなと思って、調べてはみたんですけど、そこからは何もせずマイナビだけで調べました。

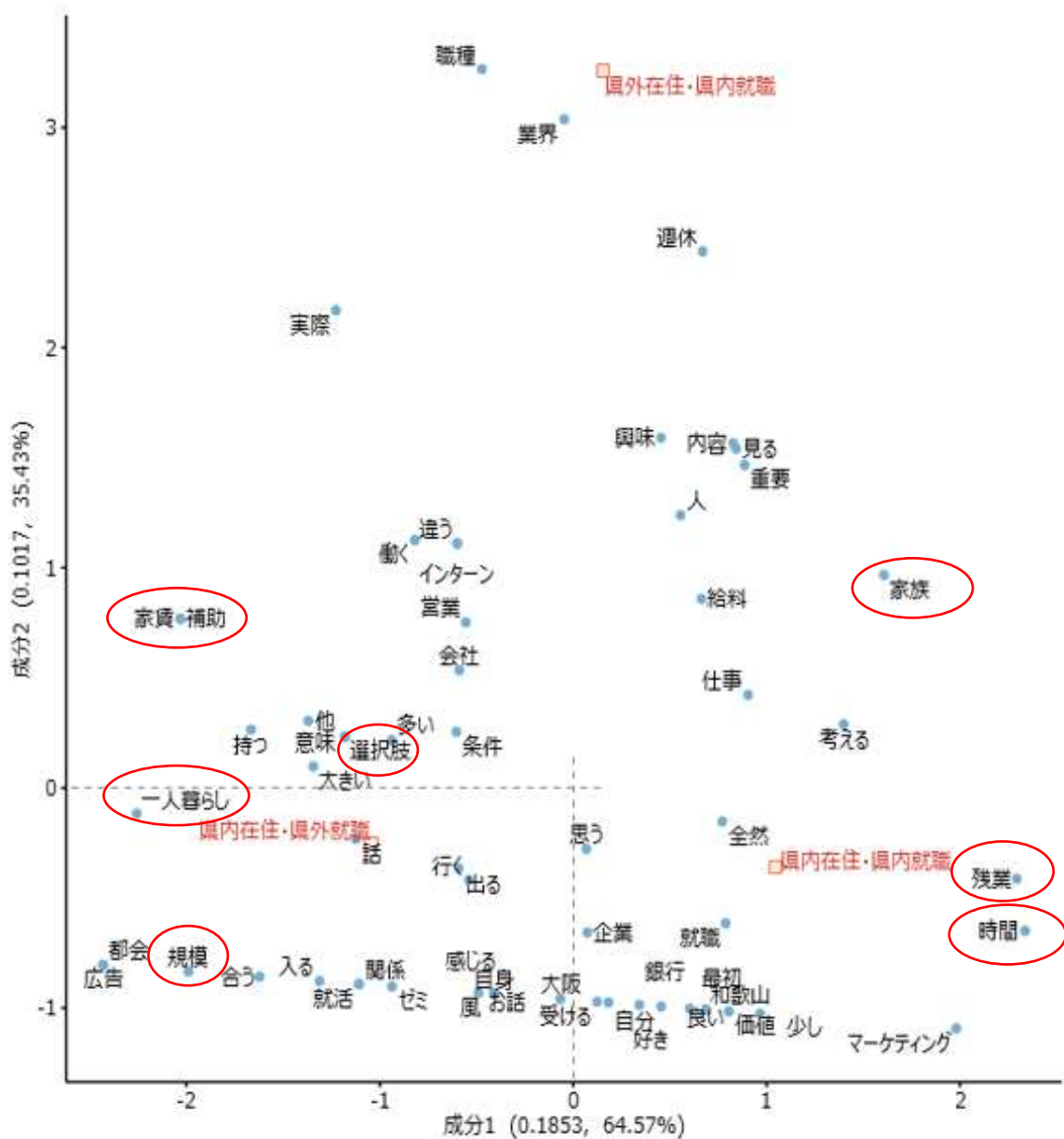
・オファーも実際きたんですけど、ただなんかそれを友達もしてたんですよ。オファーボックスを。相談っていうか、こういうところからきたんやけどみたいな話をしたら、全く同じ企業に友達もきてて全然、自己PRとか全く違うんですけど、その友達も私が知らない友達なんですけど、その友達にもきてて・・・

◇県内在住県外就職者の語り（抜粋）

・夏にある合同説明会をスポナビの人に紹介してもらって、参加したりしていました。LINE で繋がっていたので。ほぼ毎日か隔日くらいで、面談しましょうという感じで、zoom で面談をしたりしていました。

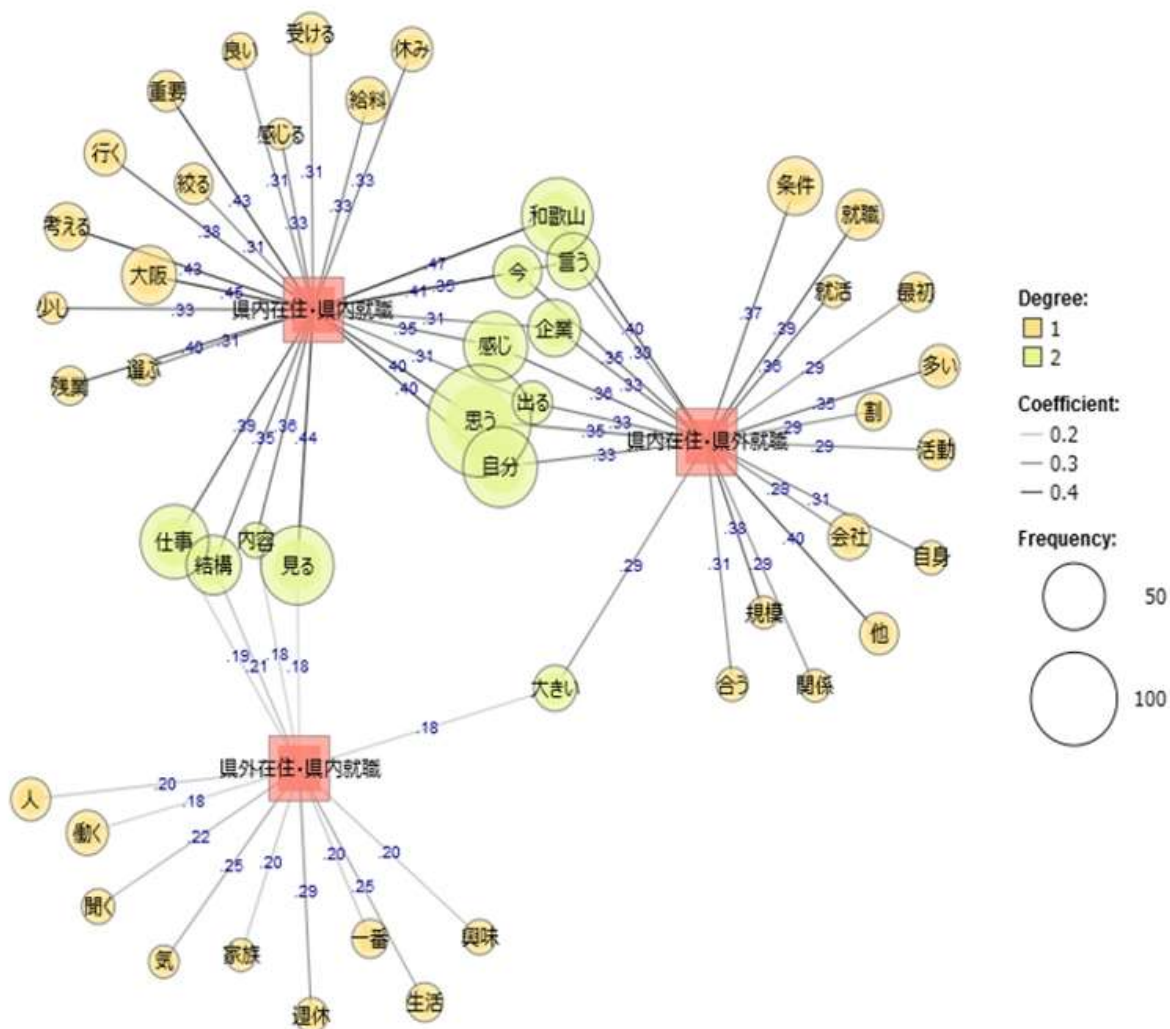
(3) 就職活動の軸について

- 県内在住県内就職学生は、家族・残業・時間など生活をベースとしたキーワードが出現しており、プライベートを大事にしたい価値観を持っており、そこが就職活動の軸となっている。
- 県内在住県外就職学生は、規模・選択肢、一人暮らし・家賃補助といったキーワードが特徴として出ている。ここから、自身の進路選択を重要視し、自立した生活を前提として、就職活動をしている。



注) 最小出現数 : 10 採用語句 : 77

図3 就職活動の軸についての対応分析



注) 最小出現数 : 10 採用語句 : 77

図4 就職活動の軸についての共起ネットワーク

◇県内在住県内就職者の語り（抜粋）

・結構両親がずっと出張とかもあまりなく転勤もなくずっとここで和歌山だったので、その影響も多分あって家族との時間は長くしたいなって思いました。お給料よりはどちらかというとそのお休みの方を見てました。お休みが週休2日制なのか完全週休2日制なのかも結構見てました。もう完全じゃない時点で「うーん」って思ってたんで。

・お金もすごい大事なのは分かってるんですけど、自分はどちらかという時間の方が大切だなって思う、価値観なので。年間休日は120日くらいがいいなというのはありました。

◇県内在住県外就職者の語り（抜粋）

・憧れになっちゃうんですかね…その大阪というかなんていうんですかね、交通が発達しているところというか。ちょっとしたことで選択肢多いじゃないですか向こう（都会）の方が。

・仕事内容もちろんですけど、環境の方が大きいかもしれないです。それもやっぱりインターンシップだったりとか、説明会とか参加してみて、人事の方もそうですけど実際に働いている方とお話する機会もあったりするんで、そういうのでどういう雰囲気だったりとかそっちの方が大事になっていう。

・何よりも重視してたのはそのコミュニケーションだとか風通しの良さみたいな部分がやっぱり自分の中で大きかったので、それは実際に話してみないと分かんないなって思ってたので…

(4) 和歌山県で働くことについて

- 県内在住県内就職学生は、生活・子・環境、ワークよりライフに価値をおくため、和歌山県の人や地域が好き、和歌山県を基盤として生きていく傾向にある。
- 県内在住県外就職学生は、全然・選択肢といったキーワードが特徴としてあげられる。これに続く言葉は「ない」が主に続く。企業・仕事・働くといった選択肢がないことから、難しいと捉えている可能性がある。

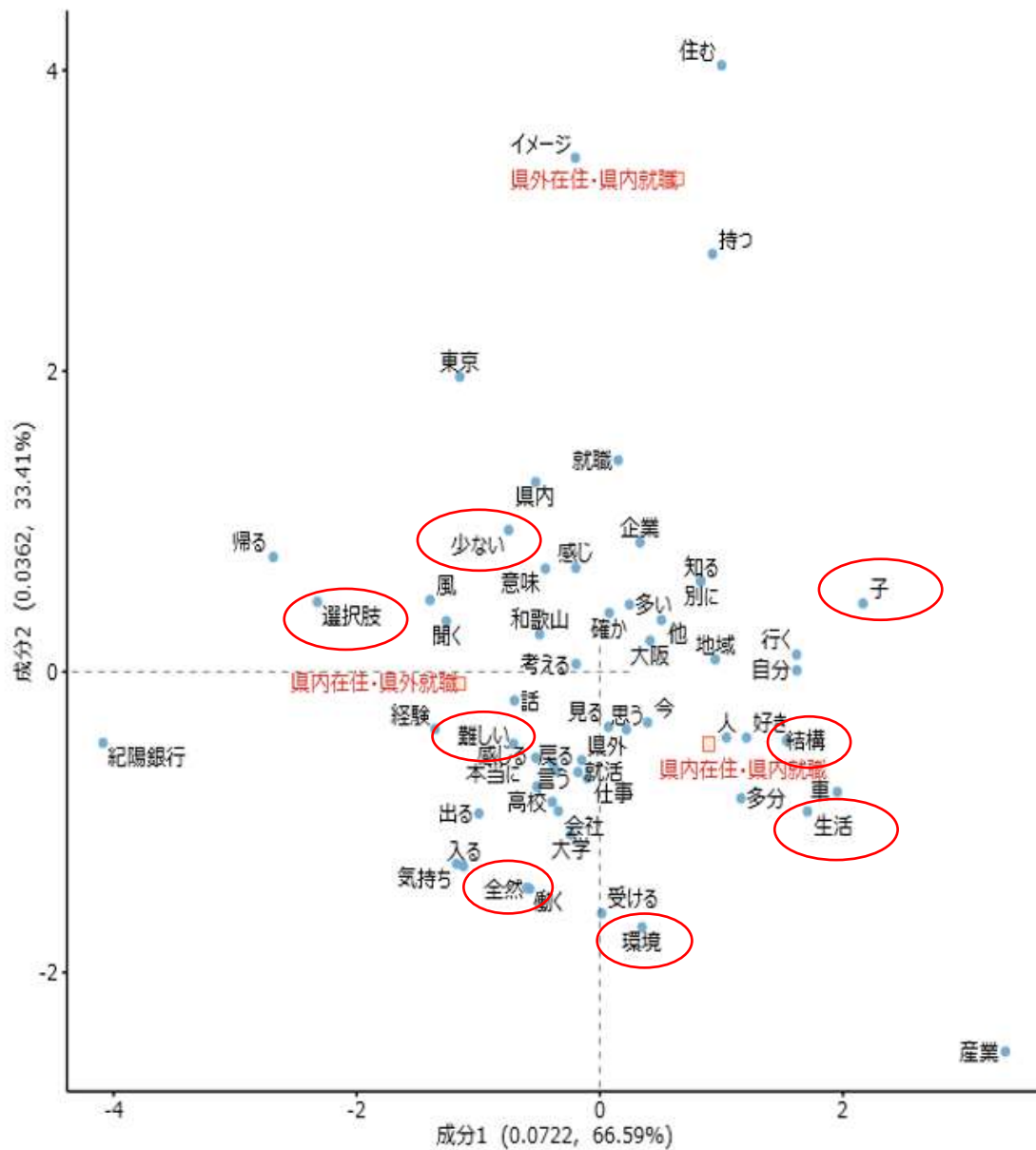
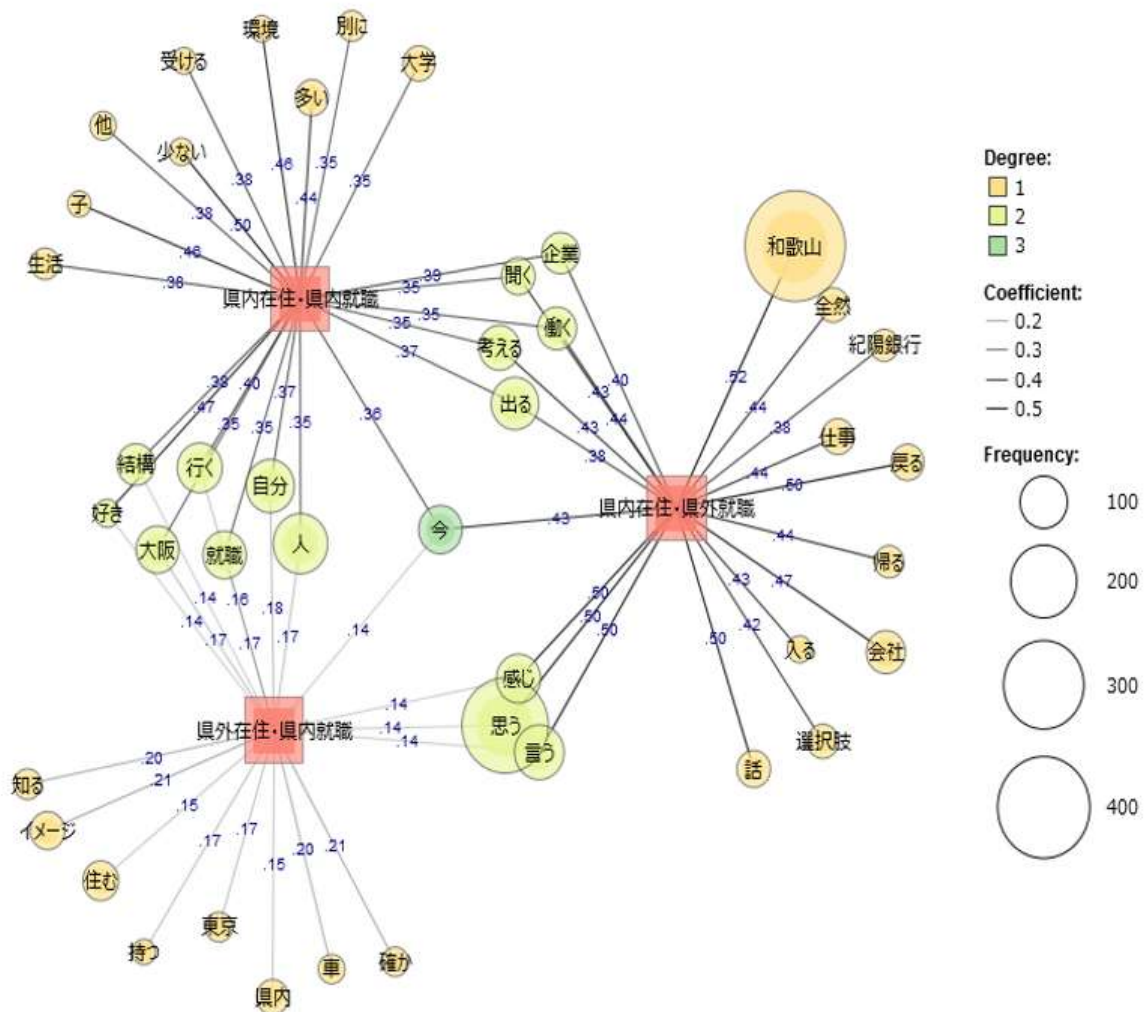


図5 和歌山県で働くことについての対応分析



注) 最小出現数 : 20 採用語句 : 57

図6 和歌山県で働くことについての共起ネットワーク

◇県内在住県内就職者の語り（抜粋）

・多分和歌山ですっと生きていくやろなっていうのはもう結構前から思ってたけど、でも就活してやっぱり自分って和歌山めっちゃ好きなんやな〜っていう、和歌山しか見てないなって思いました。

・親が寛大なのである程度家にお金入れなくてもいいよってところなので、それだけ趣味にお金も時間もかけれますし、駐車場代とかそういったものもかからないですし、そういった趣味を充実できる環境としてのメリットと、1時間でなんばに行けたり、自分の和歌山市駅に近いので、1時間ちょっとで大阪の都心に行けるっていうアクセスの良さ、…（中略）…他の趣味的な点であったり、大阪にすぐ行ける場所ですね。そういう趣味のメリットと自分の今まで小中高大過ごしてきた友達が和歌山に残るっていう、自分の仲の良い人たちが近くにいるっていうこういうメリットと、あと普通にご飯も美味しいですし、ドライブ行くにも道は整ってますし、ある程度そういう私生活のメリットがあって…

・通勤とか電車とかもそんなに使ってこなかったんで、人混みとかも不安です。そういった東京に住みたいとかっていう憧れがあったわけでもないんで、地元の方が安心なので和歌山の方がいいかなと思っています。

・なんかせかせかせかしてないじゃないですか。他に比べて。なんか都会出たら、まあみんなすごい着飾って、上から下までなんかブランド物で揃えてみたいな、便利ではあると思うんですよ。ちょっと歩いたら駅があって、それでどこにでも行けてっていうのは便利だと思うんですけど、そのどこへでも行ける

ような場所で私の興味のある場所がないので、あんまり。それやったら和歌山で過ごして、行きたい時だけ都会に出るっていう方が自分的には合ってるかなっていう。まああと自然も豊かですし。まあおばあちゃんとかも近くにいますし。お母さんも家に居るしっていうのが一番でかいですね。まあ持家がここにあるっていうのがまあ結構でかい理由ではあって、まあちっちゃい頃から住んでたっていうのも好きな理由だとは思いますが。

・結局自分やりたいことってなんかなって思ったら和歌山でその地域再生とか和歌山の人を助けるような仕事したいなって思ったのが始まりかなあ。あとは、ほんまにおばあちゃんおるからあんまり遠く行ったら寂しいとか言ってたからまあそれもあるかな。いつでも家族とかも会いに行けるし、あんまり離れたくないのもありましたね。あと単純にほんまに知らん土地は怖いからとかもあります。・・・(中略) …一番言ったら、正直に言うね。一番言ったら多分その他のとこ出ていくんがめんどくさいっていうのもあるかなあ、多分。さっきも言ったけど知らん土地、知らん人も嫌やから、あんまり環境の変化は好きじゃないんで。まあそれで、手っ取り早い和歌山かなって思いました。

・とりあえず和歌山で就職するんやったら公務員みたいなのを言われて、言われてもないけどあって親戚にも結構いてるんですよ。で、それもあるし、やっぱりつづれやんのかいいよなみたいな。多分、和歌山から出ていくのが嫌っていうそれと一緒に、似たようなとこあるんですけど。そのままでいたいみたいな。安定志向っていうか、それがあってつづれやんとこやし、まあ土日休みっぽいし。

・…選択肢を増やせば働きたいなっていう企業が数打ち当たるじゃないですけど、数が増えたら働きたいなって思ってもらえる幅が広がるんで、企業誘致はすごい魅力的とかいうか、いいなと思いました。

◇県内在住県外就職者の語り（抜粋）

・特に和歌山の人と言われ過ぎなんですよ、多分。ちっちゃい時に。和歌山はもう先ないやろ、みたいなことを言われ過ぎて。もう希望を感じないですよ、やっぱり。もう誰からともなくよく聞いた思い出がありますよね。

・授業でもそうですよね、よく少子高齢化とか取り扱うじゃないですか。和歌山の代表例みたいなのが出てきて・・・なんていうんですか授業の中やったら、じゃあどう改善していくかみたいな話しになるじゃないですか。で、皆心の中ではもうどうにもならんって思ってて・・・そしたらもう出ていかなダメやみたいな思考になると思うんですよ。

・就活を続けてる子とかの話も結構聞くんですけど。やっぱり和歌山で職を探すのが難しいっていうのはやっぱりどの人も口を揃えて言ってるんで。

・選択肢の少なさ、知る機会の少なさをすごく思いますね。別に身近になくてもいいんですけど、こういう選択肢があるっていうのを知る機会が少なかったかなというふうに思います。

・和歌山は、最悪帰ってこられるだろうという感覚があって、やっぱり若いうちは全国どこでも飛び回って、30歳40歳になったら戻ってきたいというUターンの希望はあるんですけども。・・・(中略)・・・仕事内容というよりは家賃っていう感じですね。お金をどこに使うかで、和歌山にいたら単純に家賃が浮く感覚しかなかったです。お金より経験を積みたい。和歌山ではできないことがあるかなっていう。和歌山にないことを他でやりたいなっていう。

・インフラが全然整ってないっていうのを言い続けていて、やっぱり僕が情報系なので、より気になるのかもしれないんですけど、あらゆる情報が全然回ってこないっていうのがまず一つと、あと交通のインフラも、やっぱり鉄道がやっぱり和歌山市駅と和歌山駅つながるのが一個あって、和歌山駅からは南北ぐらいにしか移動ができなくて、やっぱり中心地あたりの動きがめっちゃ滞るのは大きい要素としてあって、車とか原付(バイク)がないと、全然移動も難しいみたいなのはやっぱり大きい足枷になるんじゃないかなとは感じてたり、あと最近で言うと水道橋落ちたり、僕はがつつり水が使えなくなった被害地域だったので。何週間か水が使えないみたいな状態で自衛隊の方がいっぱい水運んでくれたので僕はタンクまでエスラコスラ運んだっていう経験もあったり、そういうインフラの老朽化の対応だったりとかもあると思うんですけど、ありとあらゆるそういう生活インフラ、情報インフラがなんとなく揃

ってないような気がしたり、そのせいというか大阪依存になったりするけど、大阪への移動もやっぱ難しかったりだとか、なんかそのあたりは住みづらいなとはずっと言ってます。逆に言うとそれが改善されたらちょっと住みやすくなったりとかはするのかなと思ってて、なんとなく自然が豊かっていることだけはよく言われるんですけど、逆に言うとそれインフラの整備進んでないだけでは？って勝手に思っちゃう。

- 和歌山県という県自体が嫌いというわけではなくて、育ってきた環境とかそこにある思い出とかとちょっと距離を取りたいみたいな感じですね。

- 就職活動はじめた辺りかはじめぐらい、はじめ前っていうか大学1年生の頃からそうなんですけれどもかなり世間が狭くなってきたというか、絶対に共通の友達がいる、新しく出会ったと思ってもその人が誰かと必ずつながってたりとかしたり、それが別に悪いことではないんですけども、何て言うか窮屈に感じるようになってきたというかっていうので、狭いなあと思ってすぐ色々な人にあたってしまおうというか、があるなあと思って感じててもうちょっと出てみてもいいかなと思って。

3. 考察・提言

(1) 考察

就職活動に関するインタビュー調査と【補完調査】和歌山大学の学生を対象とした就活に関するアンケート調査報告書（別紙参照）を総合的にみていくと、次の特徴がみられた。

【就職活動における和歌山県内企業への就職について】

就職活動において、和歌山県内への就職について「最初は「和歌山県外よりは県内就職の方がいいかな」と考えていた」と回答した者が最も多く 41.7%であった。一方、最初から和歌山県外就職のみを希望している学生は 25.0%であり、残りの 75.0%は和歌山県内就職を選択肢のひとつと検討したということがわかる（【補完調査】図 12 参照）。ヒアリング調査でも、就職活動スタート時から県内就職か県外就職かをはっきり決めていた学生は少数であった。

【就職活動の情報収集について】

就職に関する情報収集は、3年生・院1年生の6月までに始めたと回答した者が 54.2%を占めている（【補完調査】図 4 参照）。就職活動を始めた時期に関しても「3年生・院1年生の4～6月」と回答した者が 33.3%を占めており（【補完調査】図 5 参照）、政府が定めた就職活動のスケジュール、3年生・院1年生3月に就活情報の解禁（実質のスタート）という実情とはかなりかけ離れている。また、就職活動を完全に終えた時期に関して「4年生・院2年生の6月までに」と回答した者が 70.8%を占めており（【補完調査】図 18 参照）、これも、政府が定めた就職活動のスケジュール、4年生・院2年生6月に就活選考の解禁という実情とはかなりかけ離れている。

就職活動の情報収集に関して、県内就職者は、企業のホームページや就職ナビ（ユーロード）といったオンラインの情報だけでなく、身近な人（先輩・友人・先生等）からの情報を重視しており、合同説明会も活用している傾向にある。一方、県外就職者は、多様なチャネルを活用しており、就職ナビ（マイナビ・スポナビ）や、逆求人やエージェント、口コミサイト（ワンキャリア）といった多様な情報収集チャネルのキーワードが出ていることから、様々なツールを利用している傾向にある。

【就職活動の軸・決め手について】

進路を内定・合格先に決定した理由、決め手となった理由は、「社風・雰囲気」（62.5%）が最も多く、次いで「志望業種」（58.3%）、「志望職種」（50.0%）となっている（【補完調査】図 20 参照）。

県内就職者の県内就職決定理由は「和歌山県での生活に慣れているから」（66.7%）、「（自分の意思から）両親や祖父母の近くで生活したいから」「和歌山県の風土が好きだから」（55.6%）があげられている（【補完調査】図 23 参照）。ヒアリング調査同様、生活を軸として進路決定をしていることがわかる。

一方、県外就職者の県内就職を決めなかった理由は「和歌山県に志望する企業がないから」（66.7%）、「和歌山県に大手企業がないから」（33.3%）、「都会の方が便利だから」「和歌山県に志望する職種がないから」「地域にとらわれず働きたいから」（25.0%）となっている（【補完調査】図 26 参照）。ここからも、生活よりは仕事内容を軸として、選択肢を拡げて進路決定をしたことがわかる。

【和歌山県で働くことについて】

ここでは特に、県外就職者に着目する。

県外就職者が、実現すれば和歌山県内就職を検討したかも知れない要素として、「和歌山県に働きたいと思うような企業が多くできる」（66.7%）、「和歌山県に給料がよい就職先が多くできる」（58.3%）、「和歌山県の経済が活性化する」（50.0%）、「和歌山県の交通手段が大幅に改善する」（33.3%）をあげている（【補完調査】図 27 参照）。ヒアリング調査でも、県外就職者の和歌山県で働くことについて聞いてみると4つの特徴があった。「家族・教育現場で刷り込まれた和歌山へ

のネガティブイメージの影響」、そして「選択肢の少なさ」や「人間関係の狭さ」に加え、「情報インフラ、交通インフラが整っていない」ことがあげられていた。

(2) 提言

以上の調査結果から、和歌山県が実施する事業の今後について3点提案する。

■情報提供の時期や手法に工夫を

和歌山県が実施している大学生IUターン促進事業は企業の採用における母集団形成支援に特化しており、ガイドブック作成やホームページやアプリの維持管理、合説や大学内相談会や交流会の企画・運営等、学生に県内企業を「知ってもらう」ことに注力している。特に、就職活動の情報収集時期に着目したい。情報収集のスタート時期は3年生・院1年生の6月までに始める学生が半数以上であり、そこから夏のインターンシップに参加し、具体的に選考を受ける企業を選んでいるフェーズに入る。一方、冊子「U！わかやま就職ガイド」は毎年3月の発行であり、且つ、3年生・大学院1年生に送付しているが、その時期には既に内定が出ている学生が3割いる（マイナビ2024）といわれているため、情報提供する時期としては非常に遅すぎるといえる。毎年3月発行するのであれば、2年生対象に発行するべきで、その中の記事で仕事体験やインターンシップ情報を盛り込むようにすれば、手を取ってみてもらえる可能性が格段に増えるはずである。

しかしながら、近年は情報収集のチャンネルが多様化しているため、従来通りの施策ではなかなか採用に直結しない。企業は選ぶ時代から選ばれる時代にも変化している。、オファー・逆求人型やエージェント利用の助成金支給など新しい採用手法にチャレンジできる施策も検討する必要がある。また、地域の社会人からのリアルな話はプラスにもマイナスにも働く。特に県内就職を希望する学生は、友人や先輩、先生からのアドバイスも情報収集のキーワードになっていることから、和歌山県内企業で働く人々がひとりひとり人材採用を意識し、リファラル採用も積極的に促す必要があるだろう。

■県内のオトナ（保護者や中・高等学校や塾・予備校等の教員）に対する意識改革を

県外就職を希望する学生は「特に和歌山の人は言われ過ぎなんですよ、多分。ちっちゃい時に。和歌山はもう先ないやろ、みたいなことを言われ過ぎて。もう希望を感じないですよ、やっぱり。もう誰からともなくよく聞いた思い出がありますよね」と語っており、家族だけでなく教育現場でも、ネガティブな情報を刷り込むのは良くない、という指摘があった。地域の大人自身が、和歌山で働き生きていくことを肯定していく必要もあるといえる。まずは、子どもたちへの影響力が大きい中・高等学校（特に進学校）教員に対する和歌山県の労働政策への理解促進を検討するべきである。

■選択肢を増やすためにも、企業誘致や起業支援の充実を

就職活動をするときからライフを重視するか、ワークを重視するか、によって、明確に傾向が違った。県内の上場企業は12社のみ、製造3社、卸売・小売・不動産・情報通信業各2社、金融1社と業種が限られていることもあり、ワークを重視しやりたい仕事がある場合、最初から県外に出ていくことしか考えていない学生も少なくはなかった。県内企業で探すのは難しい、選択肢があまりないと判断していた。和歌山県に対して「…選択肢を増やせば働きたいなっていう企業が数打ち当たるじゃないですけど、数が増えたら働きたいなって思ってもらえる幅が広がるんで、企業誘致はすごい魅力的とかいうか、いいなと思いました」といった声も複数あった。そう語った学生は、東京から和歌山へ誘致された企業に就職している。初任給は東京勤務でも和歌山勤務でも同一であるという。選択肢を増やす努力も更に必要である。

労働政策だけでは解決しないものも多くある。特に交通インフラや情報インフラの整備についての指摘があった。和歌山県全体で横断的なプロジェクトで、できるところからひとつひとつ改善していく努力が必要であろう。

4. 参考資料

- 田代優秋(2017)「地方大学生における卒業後の移動パターンの現状—和歌山大学 生の出身地～就職先所在地情報を事例に一」『地域経済』第21巻, pp.6-14.
- 樋口耕一(2020)『社会調査のための計量テキスト分析[第2版]—内容分析の継承と発展を目指して—』ナカニシヤ出版.
- 本庄麻美子・岡田真理子(2023)「和歌山県が就職地として選択されるための探索的研究—和歌山大学生24名のヒアリング調査からみえる進路選択の現状—」『日本キャリアデザイン学会第19回研究大会・総会(2023年度大会)資料集』pp.181-184.
- 本庄麻美子・岡田真理子(2024)「和歌山県内企業の新卒採用に関する現状と課題～県内企業178社への質問紙調査に基づいて～」『地域経済』第27巻, pp.11-18.
- マイナビ(2023)『マイナビ2023年卒大学生Uターン・地元就職に関する調査』<https://career-research.mynavi.jp/wp-content/uploads/2022/05/s-Uturn23-005.pdf> (最終閲覧:2024年3月14日)
- マイナビ(2024)『マイナビ2025年卒大学生活動実態調査(3月1日)』<https://career-research.mynavi.jp/wp-content/uploads/2024/03/s-naitei-2025-0301ver.2-1.pdf> (最終閲覧:2024年3月14日)
- 和歌山県商工観光労働部労働政策課(2023)「雇用促進アクションプログラム2023」<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/060600/03jigyo/d00213307.html> (最終閲覧:2024年3月14日)

【補完調査】
和歌山大学の学生を対象とした
就活に関する
アンケート調査報告書
(和歌山県内大学卒業生等の就職先&県内企業
の需要に関する調査研究)

令和6年3月

和歌山大学経済学部

本庄麻美子・岡田真理子

<目 次>

1. 調査概要.....	1
(1) 調査背景と目的.....	1
(2) 調査対象と方法.....	1
(3) 調査項目.....	1
(4) 実施状況.....	2
2. 調査結果.....	3
(1) 属性.....	3
①所属.....	3
②性別.....	3
(2) 働くこと、就職活動について.....	3
①人生の中で働くことや仕事に対してはじめて意識を持った時期.....	3
②就職に関する情報収集を始めた時期.....	4
③就職活動を始めた時期.....	5
④企業・団体を知るために情報を得ていた媒体等.....	6
⑤セミナーに参加した企業・団体数.....	7
⑥セミナーに参加した企業・団体の業種.....	7
⑦実際に受験した企業・団体数.....	8
⑧選考のプロセスで「志望度が高くなっていった」企業の有無.....	8
⑨選考のプロセスで「受験をやめよう」と選択することになった理由.....	9
⑩就職活動における、和歌山県内企業への就職について.....	9
⑪両親や親族に就職の相談有無.....	9
⑫主に親族の誰に相談したか.....	10
⑬親族のアドバイスが就活に影響したか.....	10
⑭アドバイスを受けての和歌山県での就職に対する考え方.....	10
⑮就職の意思決定をする際に影響を与えた人.....	11
⑯就職活動を完全に終えた時期.....	11
(3) 内定先について.....	12
①内定・合格の企業・団体数.....	12
②進路を内定・合格先に決定した理由、決め手となった理由.....	12
③進路決定した企業・組織とのキッカケや接点.....	13
(3) 出身地と進路決定について.....	14
①出身地と最終的な進路先.....	14
②和歌山県での就職決定理由.....	14
③受験した和歌山県内の企業・団体数.....	15
④内定した和歌山県内の企業・団体数.....	15
⑤和歌山県で就職を決めなかった理由.....	16
⑥和歌山県内就職を検討したかも知れないもの.....	16
⑦将来的な和歌山県内（Uターン含む）就職について.....	17
⑧どのような機会に和歌山県就職を考えるか.....	17
3. 参考資料.....	18

※報告書の見方

回答結果の割合「%」は有効回答数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものである。そのため、単数回答であっても合計値が100.0%にならない場合がある。

また、複数回答の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しているため、合計が100.0%を超える場合がある。

図・表内の「n数 (number of case)」は、有効回答数（集計対象者総数）を表している。

回答者数が少数のため、単純集計結果の傾向のみを簡易に整理している。

1. 調査概要

(1) 調査背景と目的

本調査は、和歌山大学最終学年学生 24 名への質的調査ではみえてこなかったもの補完するために、別途、アンケート調査をオンラインで実施したものである。

マイナビが実施した全国調査でも、卒業高校の所在地都道府県を和歌山県と回答したサンプル数は少なく、マイナビ（2022）は 43、マイナビ（2023）でも 30 であり、属性も、地元外進学学生の回答がメインとなっている。就職みらい研究所が実施した全国調査でも、出身地が和歌山と回答したサンプルは、就職みらい研究所（2022）は 4、就職みらい研究所（2023）は 5 と少数であり、参考値として算出されている。そのため、和歌山大学学生を対象に調査することは地元進学学生のサンプル数をあげ、全国調査とはまた違った学生の特徴を把握することに貢献できると考えられる。

本調査は和歌山県の委託を受け、「和歌山県内大学卒業生等の就職先&県内企業の需要に関する調査研究」の一環として実施したものである。

(2) 調査対象と方法

卒業後の進路を決定した和歌山大学の学生（大学 4 年生、修士 2 年生）を対象に実施した（※一部 U-Road 会員も含む）。

学生へメール等により調査依頼状・調査票を送付し、調査への回答は-googleフォームを活用した Web 調査である。

調査時期は、令和 5 年 3 月である。

(3) 調査項目

以下の項目について調査を実施した。

〔I. 属性〕

- ・ 所属学部
- ・ 性別

〔II. 働くこと、就職活動について〕

- ・ 人生の中で働くことや仕事に対してはじめて意識を持った時期
- ・ 就職に関する情報収集を始めた時期
- ・ 就職活動を始めた時期
- ・ 企業・団体を知るために情報を得ていた媒体等
- ・ セミナーに参加した企業・団体数
- ・ セミナーに参加した企業・団体の業種
- ・ 実際に受験した企業・団体数
- ・ 選考のプロセスで「志望度が高くなっていった」企業の有無
- ・ 選考のプロセスで「受験をやめよう」と選択することになった理由
- ・ 就職活動における和歌山県内企業への就職について
- ・ 両親や親族に就職の相談有無
- ・ 主な親族の相談相手
- ・ 親族のアドバイスが就活に影響したか
- ・ アドバイスを受けての和歌山県での就職に対する考え方
- ・ 就職の意思決定をする際に影響を与えた人
- ・ 就職活動を完全に終えた時期

〔Ⅲ. 内定先について〕

- ・ 内定・合格の企業・団体数
- ・ 進路を内定・合格先に決定した理由、決め手となった理由
- ・ 進路決定した企業・組織とのキッカケや接点

〔Ⅳ. 出身地と進路決定について〕

- ・ 出身と最終的な進路先
- ・ 和歌山県での就職決定理由
- ・ 受験した和歌山県内の企業・団体数
- ・ 内定した和歌山県内の企業・団体数
- ・ 和歌山県で就職を決めなかった理由
- ・ 実現すれば、和歌山県内就職を検討したかも知れないもの
- ・ 将来的な和歌山県内（Uターン含む）就職について
- ・ どのような機会に和歌山県就職を考えるか

（４）実施状況

回収数は 24 票であった（内 1 票は U-Road 会員）。

2. 調査結果

(1) 属性

① 所属

□ 所属は、約9割(87.1%)が文系である。

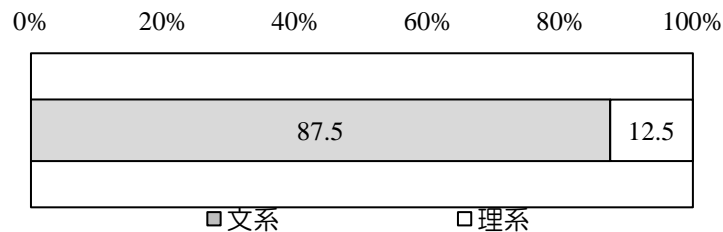


図2 所属 [n=24]

② 性別

□ 性別は、男女同数程度だが、「男性」の方が多くなっている(54.2%)。

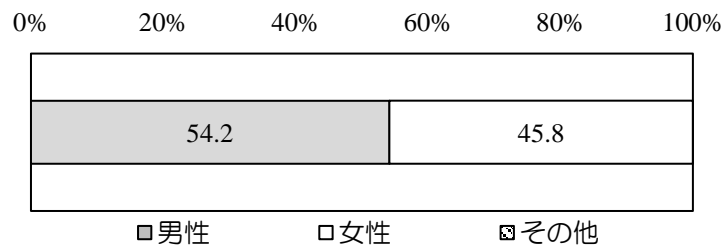


図3 業種 [n=24]

(2) 働くこと、就職活動について

① 人生の中で働くことや仕事に対してはじめて意識を持った時期(単数回答)

□ 人生の中で働くことや仕事に対してはじめて意識を持った時期は、「高等学校」が最も多く(37.5%)、次いで「中学校」「大学1~2年生」(16.7%)となっている。

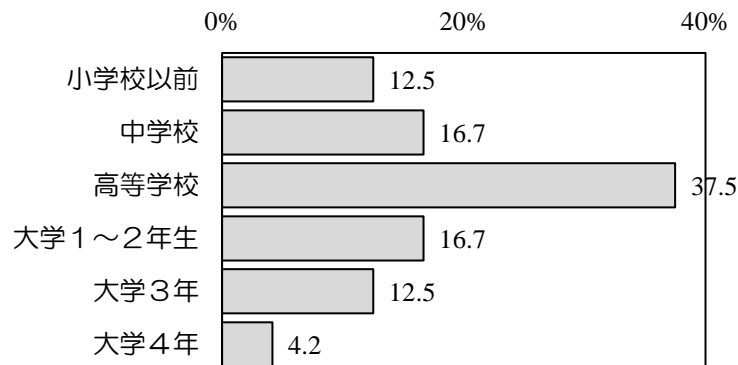


図4 人生の中で働くことや仕事に対してはじめて意識を持った時期 [n=24]

② 就職に関する情報収集を始めた時期(単数回答)

□ 新卒就職に関する情報収集を始めた時期は、「3年・M1の4月」「3年・M1の6月」が最も多く(20.8%)、次いで「3年・M1の9月」(12.5%)となっている。

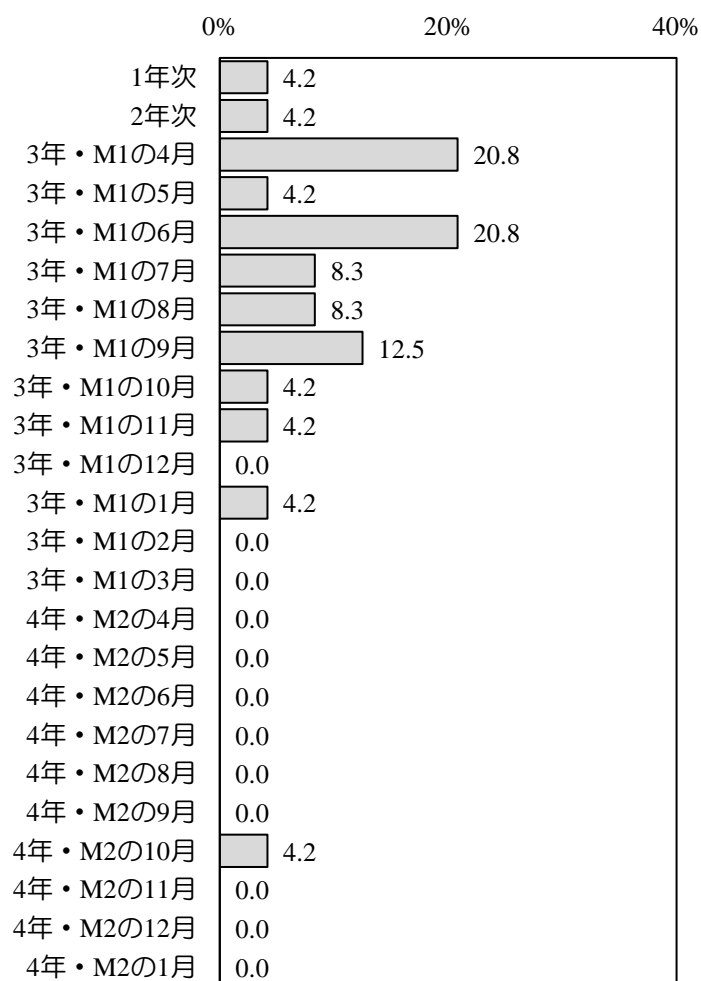


図 5 就職に関する情報収集を始めた時期 [n=24]

③ 就職活動を始めた時期(単数回答)

□ 就職活動を始めた時期は、「3年・M1の6月」が最も多く(20.8%)、次いで「3年・M1の12月」(16.7%)となっている。

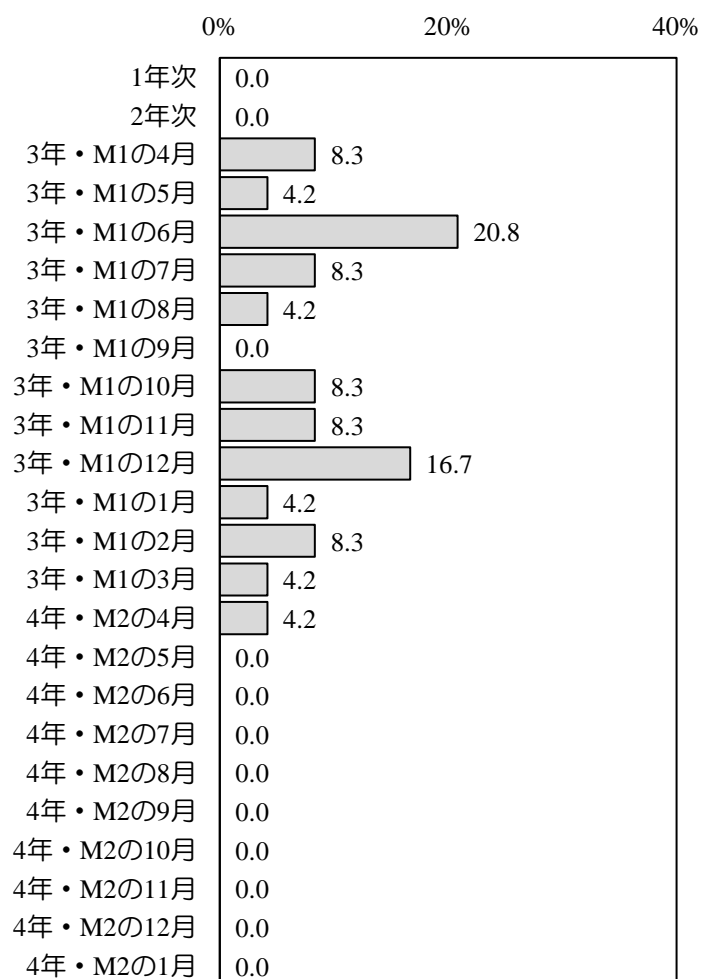


図 6 就職活動を始めた時期 [n=24]

④ 企業・団体を知るために情報を得ていた媒体等(複数回答)

□ 企業・団体を知るために情報を得ていた媒体等は、「就職ナビ」が最も多く(87.5%)、次いで「WEB情報」(58.3%)、「学内合同企業説明会」(45.8%)となっている。

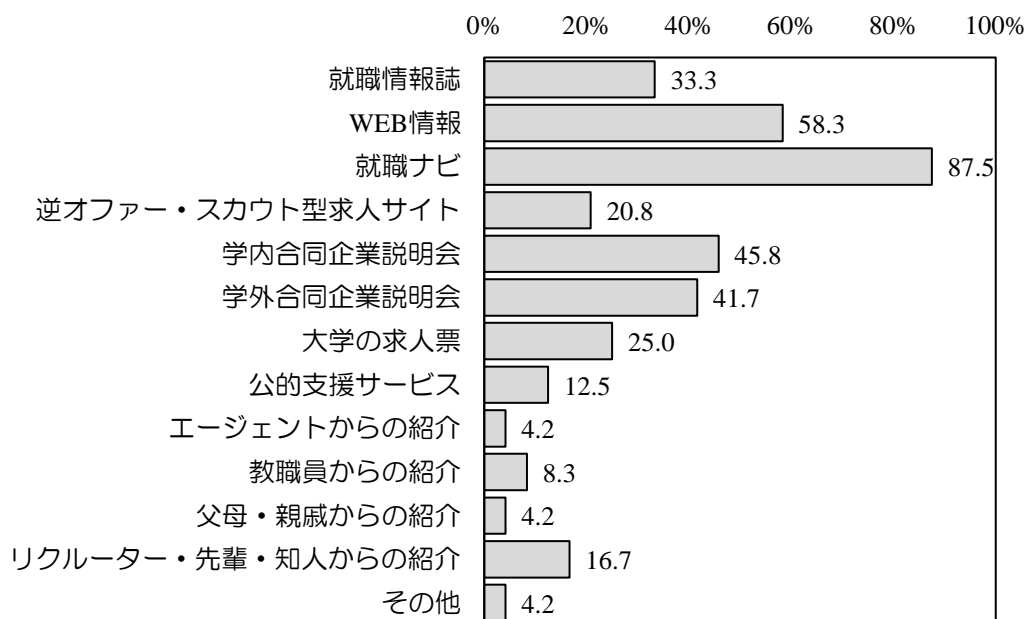


図 7 企業・団体を知るために情報を得ていた媒体等 [n=24]

【参考】

○ 「その他」は、スポナビやアスブラ。

⑤ セミナーに参加した企業・団体数(数値回答)

□ セミナーに参加した企業・団体数は、「1～10社」が最も多く(37.5%)、次いで「11～20社」(29.2%)となっている。

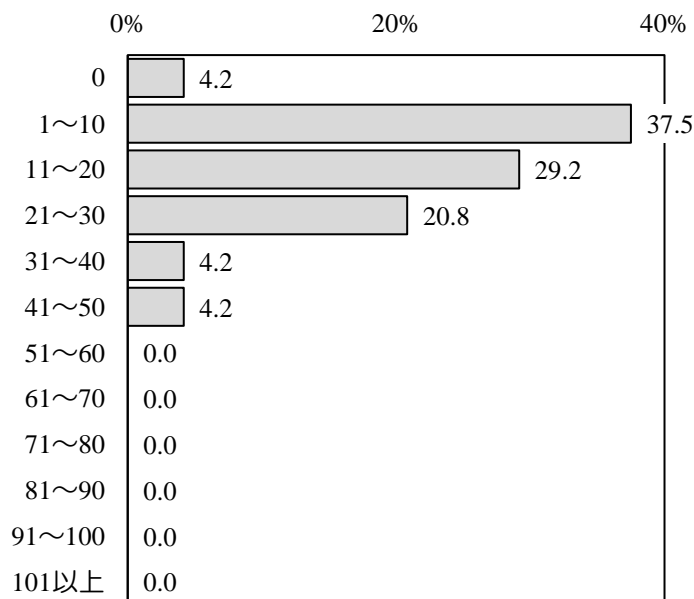


図 8 セミナーに参加した企業・団体数 [n=24]

【参考】

〔最大値〕 50 社 〔最頻値〕 30 社 〔中央値〕 14 社 〔平均値〕 17.2 社

⑥ セミナーに参加した企業・団体の業種(複数回答)

□ 新卒セミナーに参加した企業・団体の業種は、「金融業」が最も多く(45.8%)、次いで「情報通信業」(41.7%)、「小売業」「サービス全般」(37.5%)となっている。

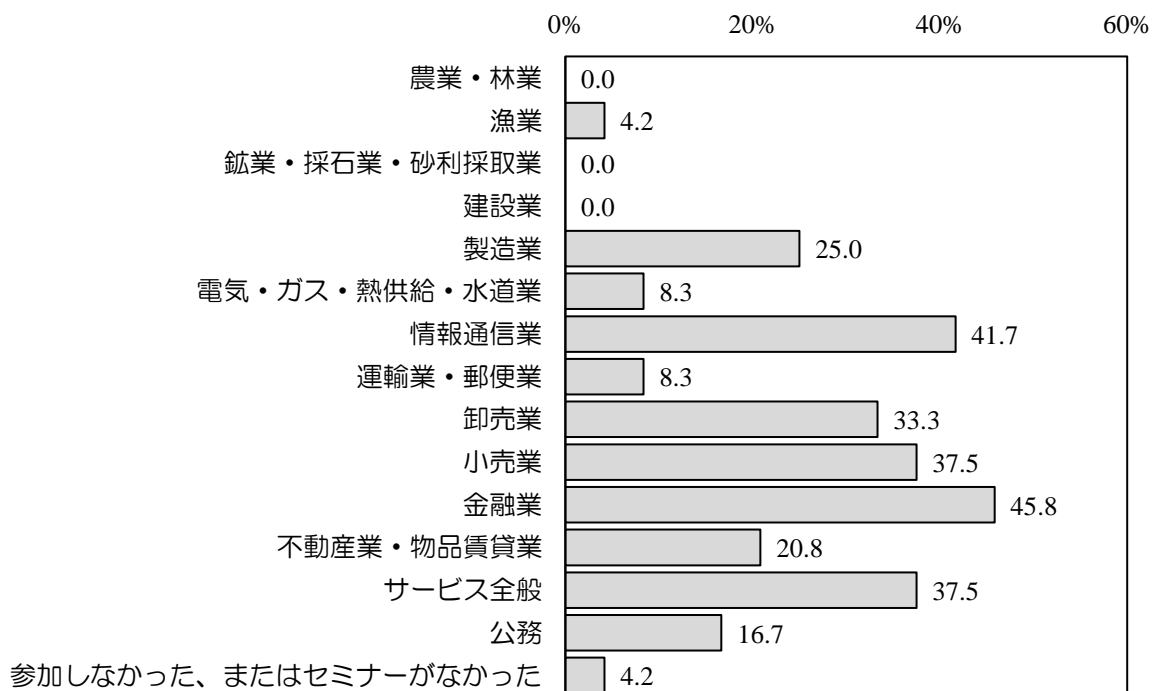


図 9 セミナーに参加した企業・団体の業種 [n=24]

⑦ 実際に受験した企業・団体数(数値回答)

□ 実際に受験した企業・団体数は、「1～10社」が最も多く(66.7%)、次いで「11～20社」(20.8%)となっている。

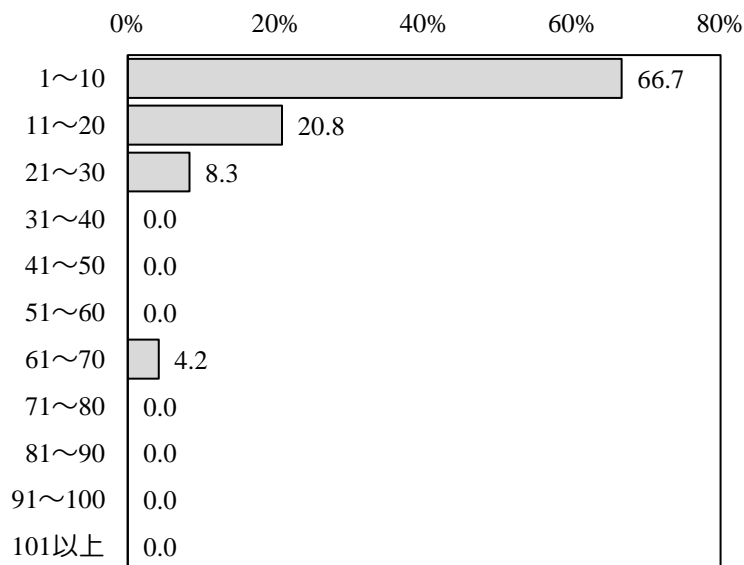


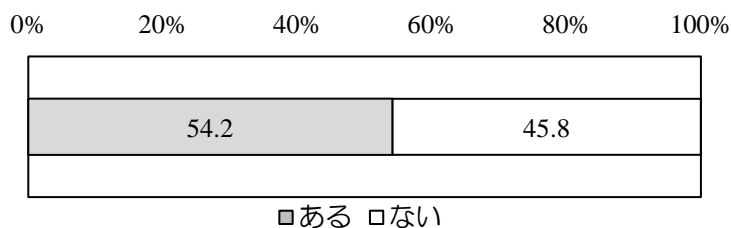
図 10 実際に受験した企業・団体数 [n=24]

【参考】

〔最大値〕 61 社 〔最頻値〕 20 社 〔中央値〕 8 社 〔平均値〕 12.0 社

⑧ 選考のプロセスで「志望度が高くなっていった」企業の有無(単数回答)

□ 選考のプロセスで「志望度が高くなっていった」企業の有無は、約半数(54.2%)が「ある」と回答している。



□ある □ない

図 11 選考のプロセスで「志望度が高くなっていった」企業の有無 [n=24]

⑨ 選考のプロセスで「受験をやめよう」と選択することになった理由(複数回答)

□ 選考のプロセスで「受験をやめよう」と選択することになった理由は、「他社で内々定が出たため」が最も多く(41.7%)、次いで「社風が自分に合わないと感じたため」(33.3%)となっている。

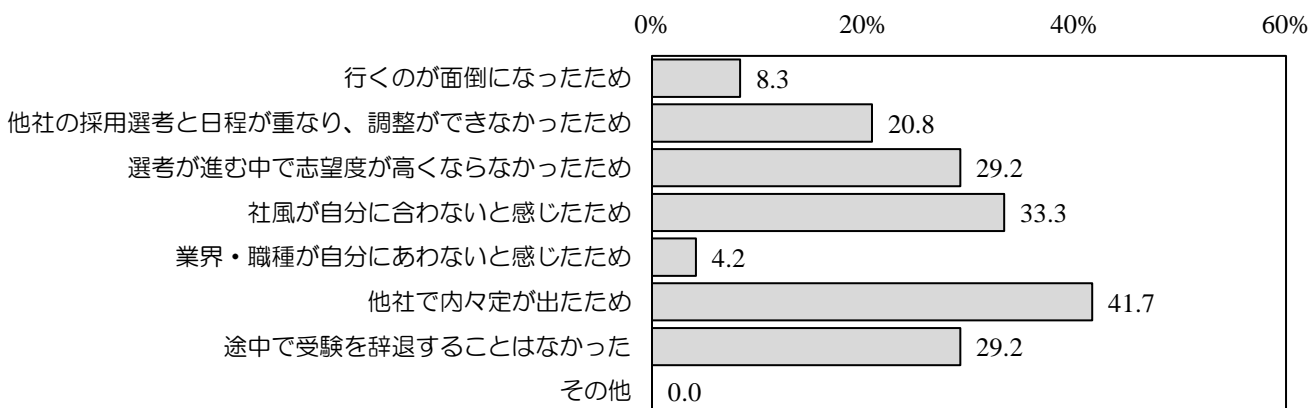


図 12 選考のプロセスで「受験をやめよう」と選択することになった理由 [n=24]

⑩ 就職活動における、和歌山県内企業への就職について(単数回答)

□ 就職活動において、和歌山県内企業への就職については、「最初は「和歌山県外よりは県内就職の方がいいかな」と考えていた」が最も多くなっている(41.7%)。

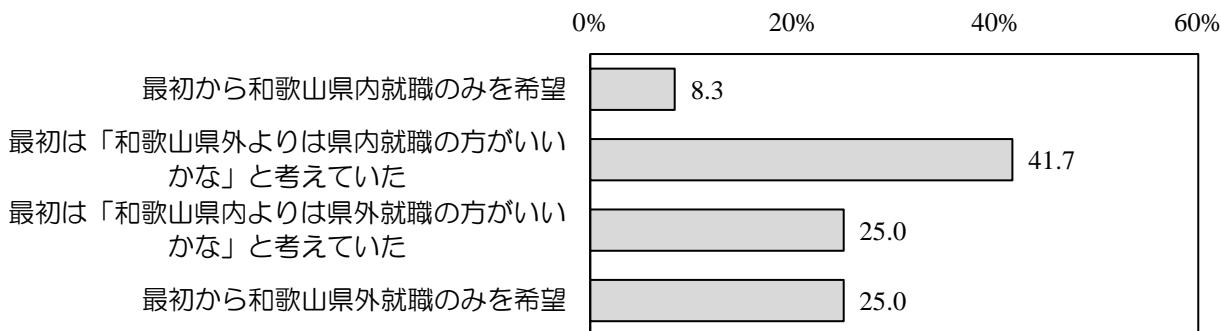


図 13 就職活動において、和歌山県内企業への就職について [n=24]

⑪ 両親や親族に就職の相談有無(単数回答)

□ 両親や親族に就職の相談有無は、約 6 割 (62.5%) が「はい」と回答している。

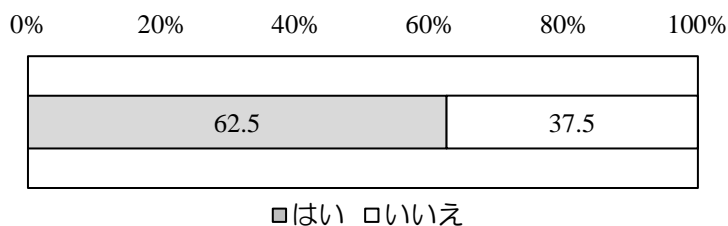


図 14 両親や親族に就職の相談有無 [n=24]

⑫ 主に親族の誰に相談したか(単数回答)※⑪で「はい」と回答した人が対象

□ 主な親族の相談相手は、「母親」が最も多く(66.7%)、次いで「父親」(20.0%)となっている。

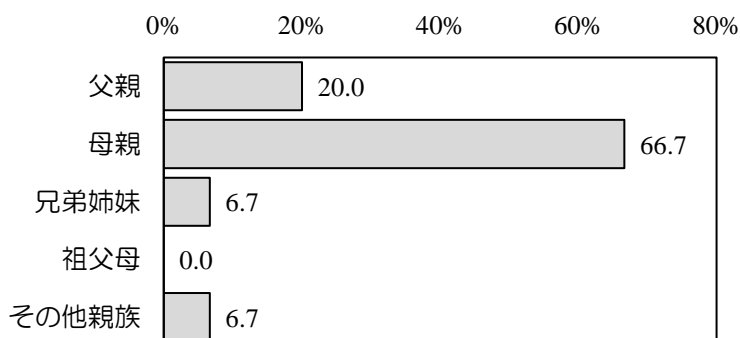


図 15 主な親族の相談相手 [n=15]

⑬ 親族のアドバイスが就活に影響したか(単数回答)※⑪で「はい」と回答した人が対象

□ 親族のアドバイスが就活に影響したかは、半数以上(53.3%)が「多少影響した」と回答している。

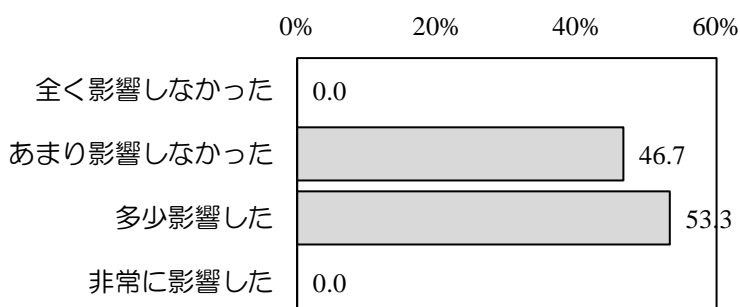


図 16 親族のアドバイスが就活に影響したか [n=15]

⑭ アドバイスを受けての和歌山県での就職に対する考え方(単数回答)※⑬で「多少影響した」「非常に影響した」と回答した人が対象

□ アドバイスを受けて和歌山県での就職に対する考え方は、半数が「多少和歌山県での就職を意識するようになった」と回答している。

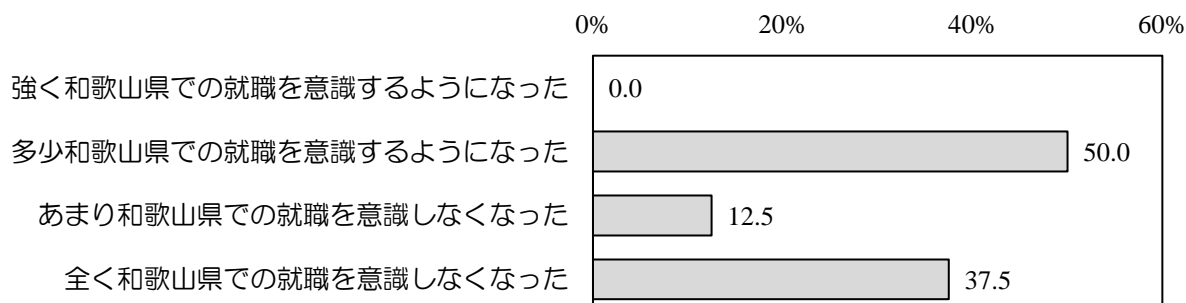


図 17 アドバイスを受けて和歌山県での就職に対する考え方 [n=15]

⑮ 就職の意思決定をする際に影響を与えた人(複数回答)

□ 就職の意思決定をする際に影響を与えた人は、「母親」「友人」「影響を与えた人はいない」が最も多く(33.3%)、次いで「進路決定先の社員」(20.8%)となっている。

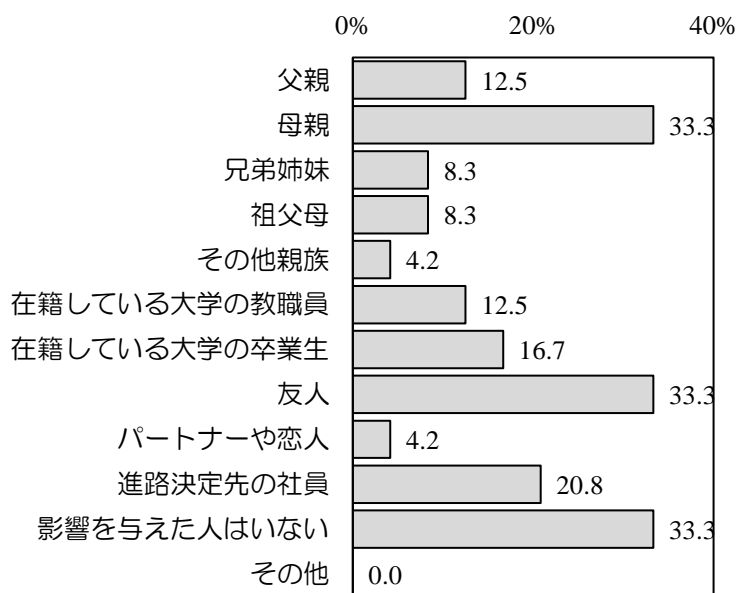


図 18 就職の意思決定をする際に影響を与えた人 [n=24]

⑯ 就職活動を完全に終えた時期(単数回答)

□ 就職活動を完全に終えた時期は、「4年・M2の6月」が最も多く(33.3%)、次いで「3年・M1の3月」(16.7%)となっている。

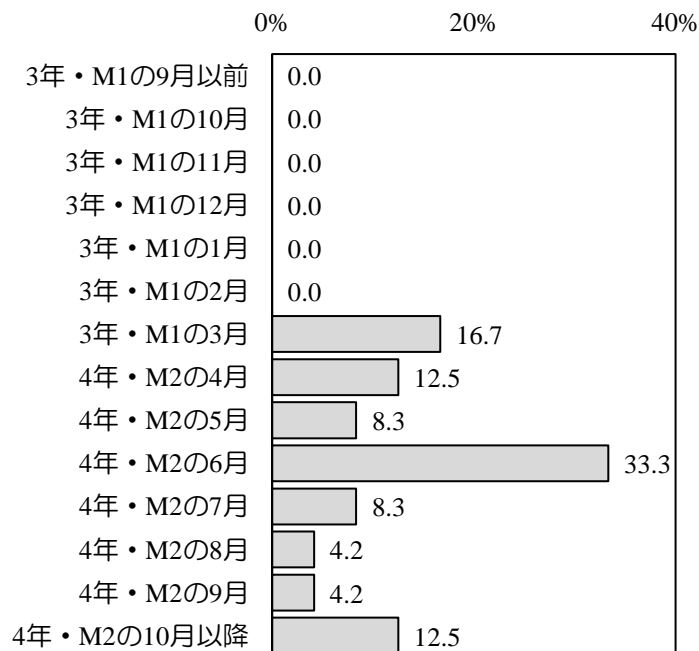


図 19 就職活動を完全に終えた時期 [n=24]

(3) 内定先について

① 内定・合格の企業・団体数(数値回答)

□ 内定・合格の企業・団体数は、「1社」が最も多く(41.7%)、次いで「2社」(33.3%)となっている。

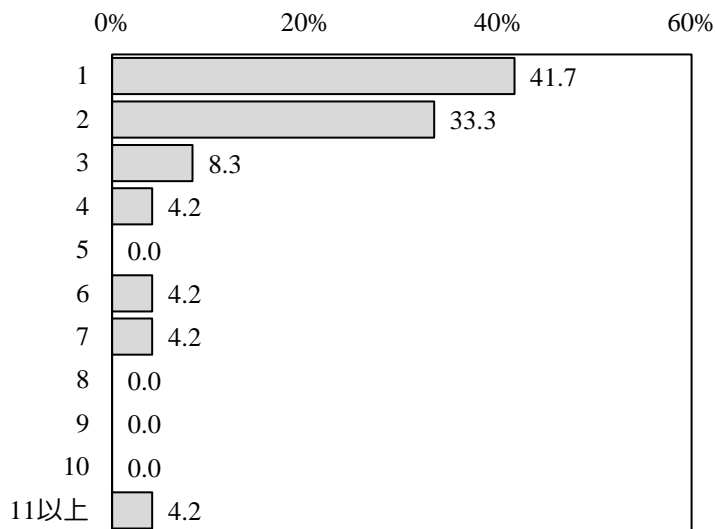


図 20 内定・合格の企業・団体数 [n=24]

【参考】

〔最大値〕 11社 〔最頻値〕 1社 〔中央値〕 2社 〔平均値〕 2.5社

② 進路を内定・合格先に決定した理由、決め手となった理由(複数回答)

□ 進路を内定・合格先に決定した理由、決め手となった理由は、「社風・雰囲気」が最も多く(62.5%)、次いで「志望業種」(58.3%)、「志望職種」(50.0%)となっている。

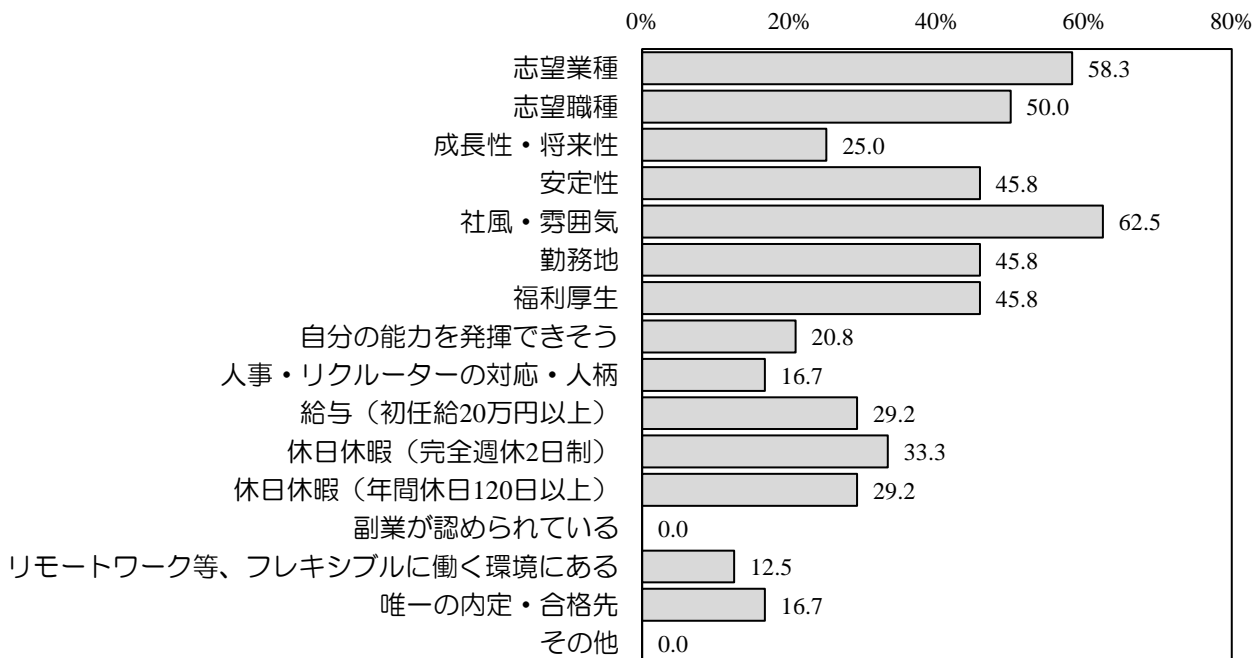


図 21 進路を内定・合格先に決定した理由、決め手となった理由 [n=24]

③ 進路決定した企業・組織とのキッカケや接点(複数回答)

□ 進路を決定した企業・組織とのキッカケや接点は、「Web(就職活動ナビ・ホームページ)」が最も多く(62.5%)になっている。

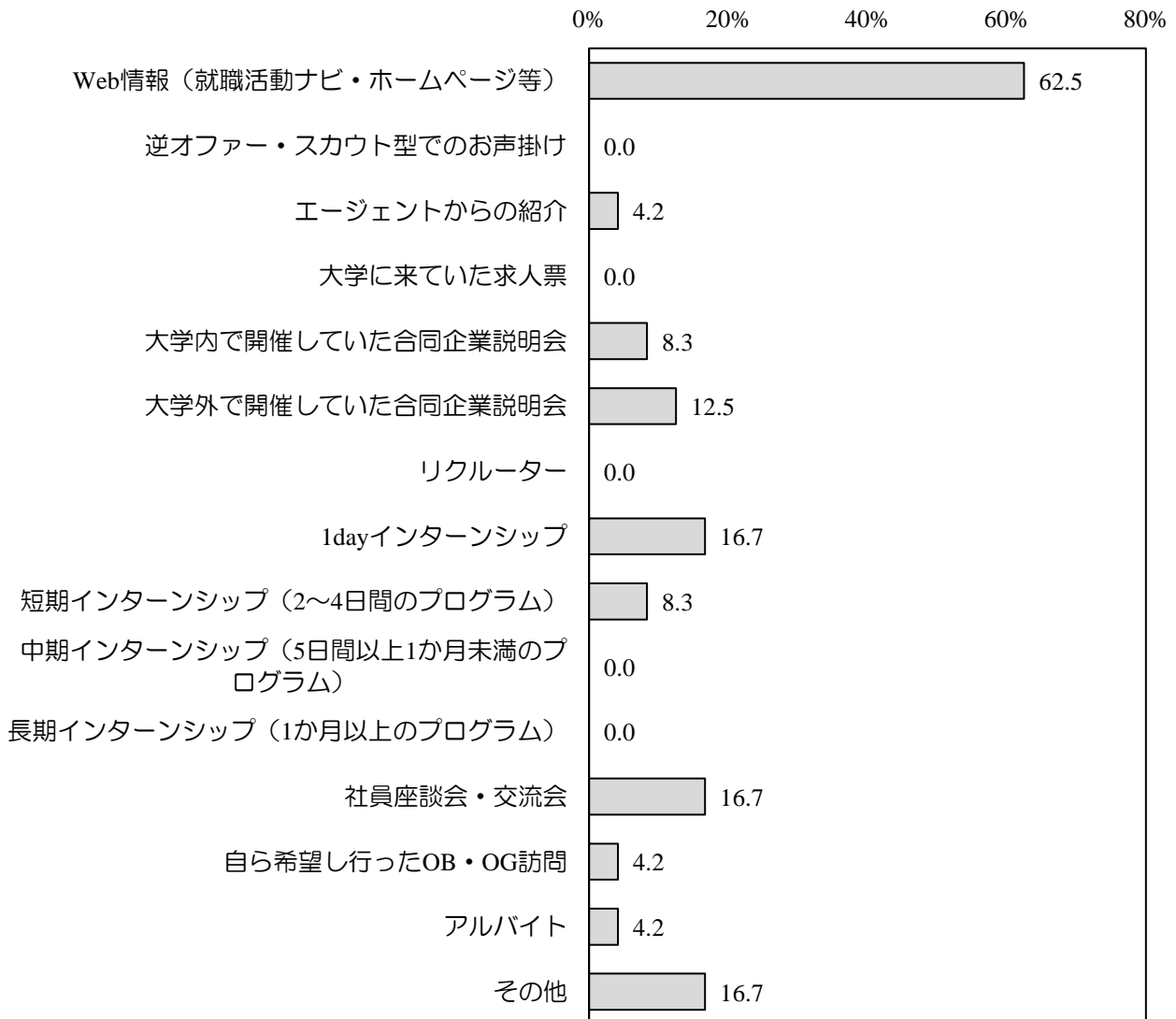


図 22 進路決定した企業・組織とのキッカケや接点 [n=24]

【参考】

○ 「その他」は、「ゼミでの企業説明会」、「大学の授業での説明会」、「知り合い」、「企業で開催していた説明会」である。

(3) 出身地と進路決定について

① 出身地と最終的な進路先(単数回答)

□ 出身地と最終的な進路先は、半数が「和歌山県内出身で和歌山県外就職」と回答し、『和歌山県内での就職』は、約4割(41.7%)である。

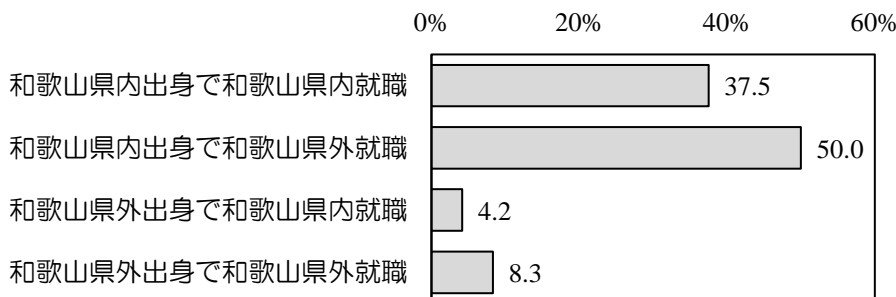


図 23 出身地と最終的な進路先 [n=24]

② 和歌山県での就職決定理由(複数回答)※①で「和歌山県内出身で和歌山県内就職」と回答した人が対象

□ 和歌山県での就職決定理由は「和歌山県での生活に慣れているから」が最も多く(66.7%)、次いで「(自分の意思から)両親や祖父母の近くで生活したいから」「和歌山県の風土が好きだから」(55.6%)となっている。

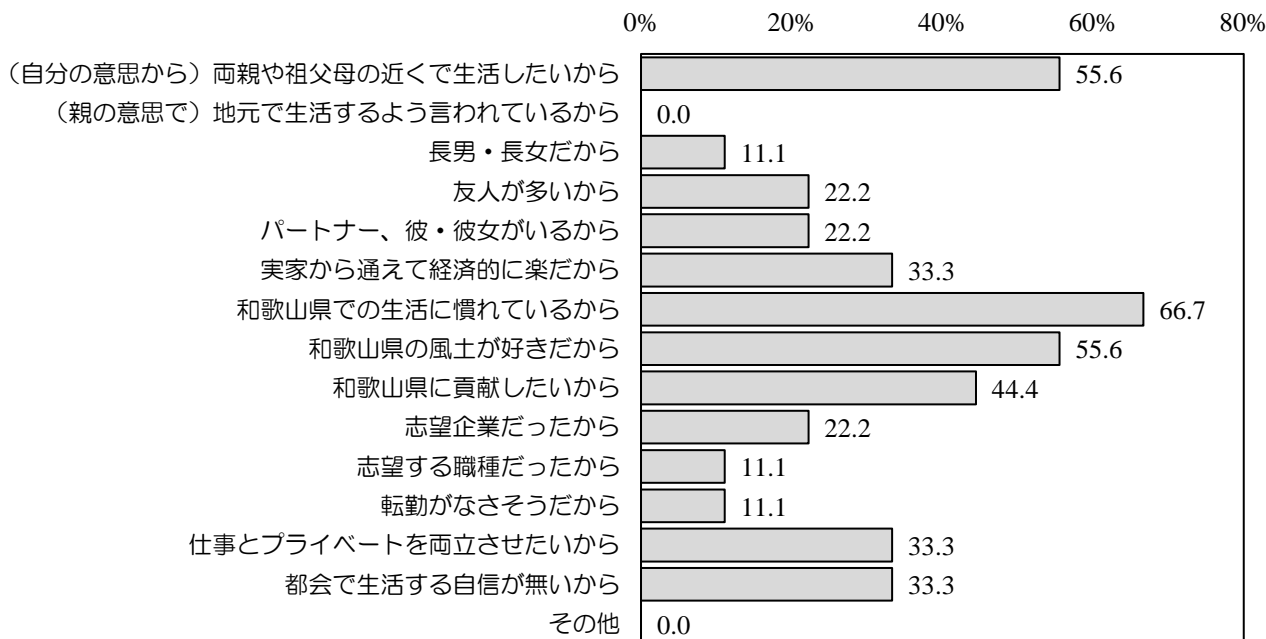


図 24 出身地と最終的な進路先 [n=9]

※以降③～⑦は①で「和歌山県内出身で和歌山県外就職」と回答した人が対象

③ 受験した和歌山県内の企業・団体数(数値回答)

□ 受験した和歌山県内の企業・団体数は、「0社」が最も多く(58.3%)、次いで「1社」(25.0%)となっている。

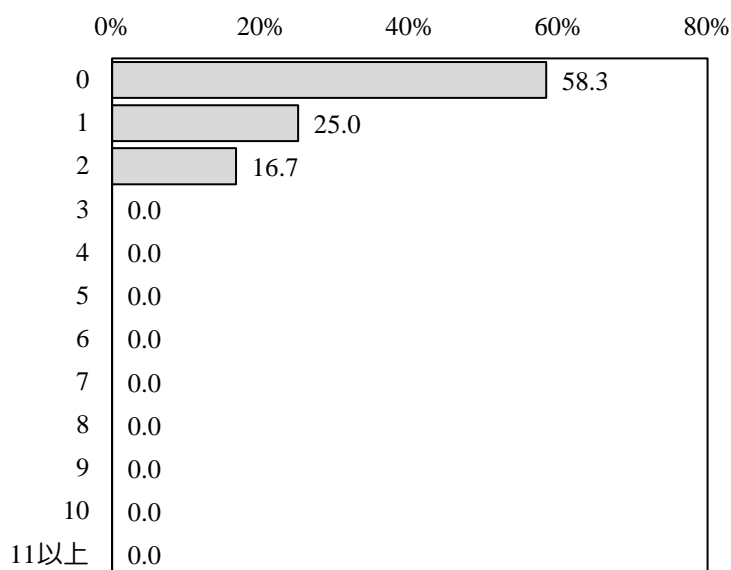


図 25 受験した和歌山県内の企業・団体数 [n=12]

【参考】

〔最大値〕 2社 〔最頻値〕 0社 〔中央値〕 0社 〔平均値〕 0.6社

④ 内定した和歌山県内の企業・団体数(数値回答)

□ 内定した和歌山県内の企業・団体数は、大多数(91.7%)が「0社」と回答している。

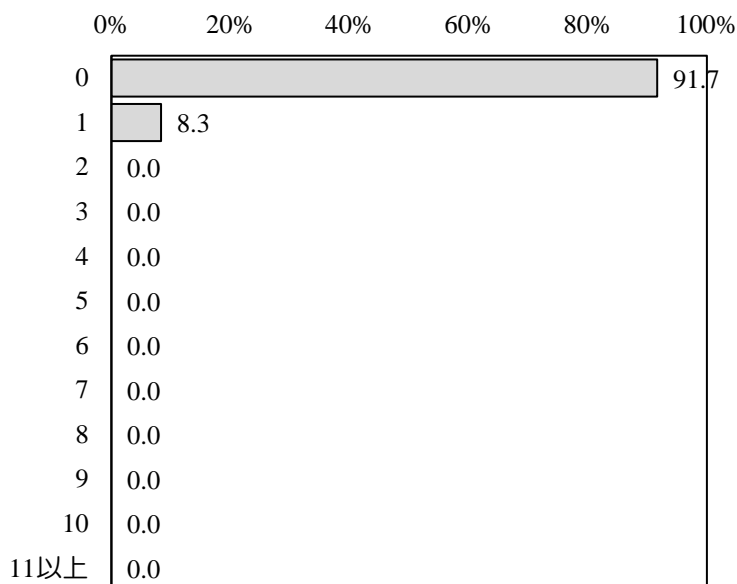


図 26 内定した和歌山県内の企業・団体数 [n=12]

【参考】

〔最大値〕 1社 〔最頻値〕 0社 〔中央値〕 0社 〔平均値〕 0.1社

⑤ 和歌山県で就職を決めなかった理由(複数回答)

□ 和歌山県での就職を決めなかった理由は、「和歌山県に志望する企業がないから」が最も多く(66.7%)、次いで「和歌山県に大手企業がないから」(33.3%)、「都会の方が便利だから」「和歌山県に志望する職種がないから」「地域にとらわれず働きたいから」(25.0%)となっている。

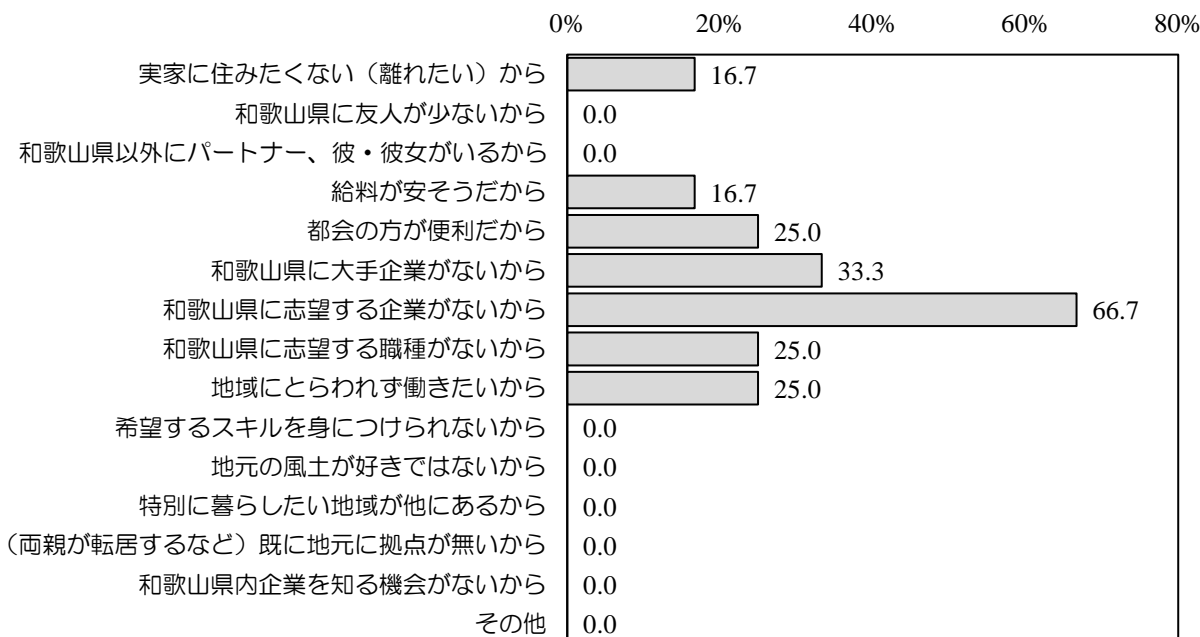


図 27 和歌山県での就職を決めなかった理由 [n=12]

⑥ 和歌山県内就職を検討したかも知れないもの(複数回答)

□ 実現すれば、和歌山県内就職を検討したかも知れないものは、「和歌山県に働きたいと思うような企業が多くできる」(66.7%)、次いで「和歌山県に給料がよい就職先が多くできる」(58.3%)、「和歌山県の経済が活性化する」(50.0%)となっている。

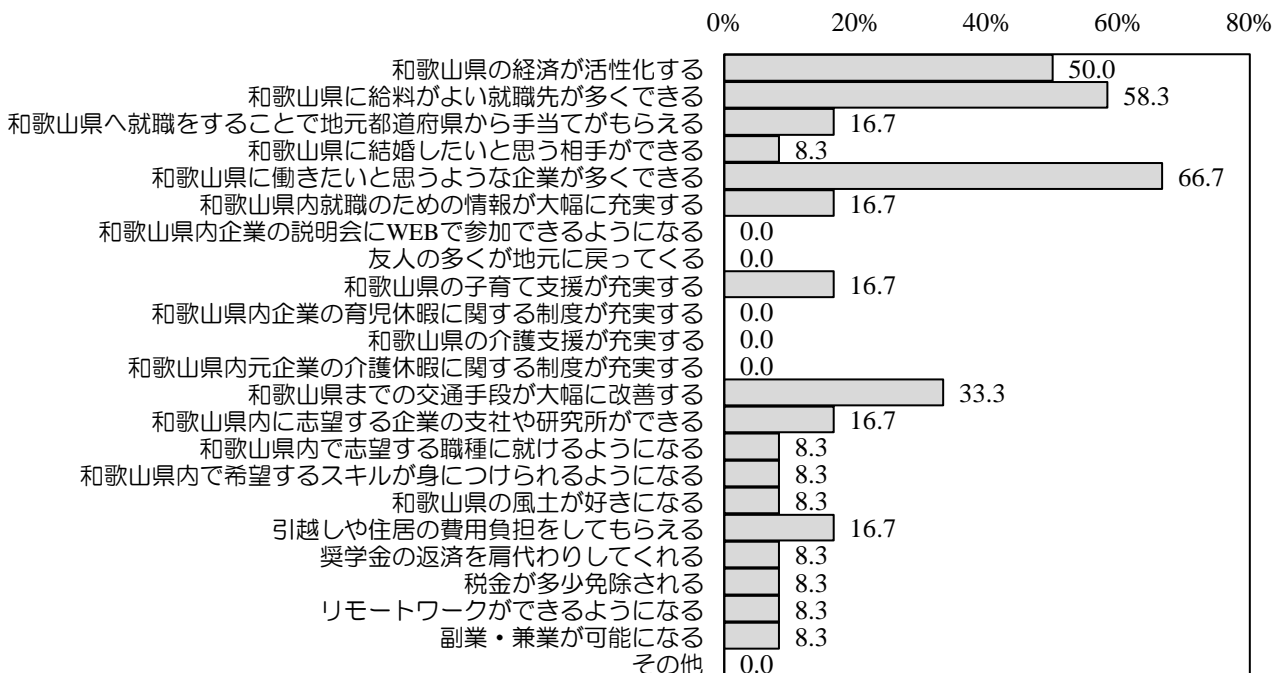


図 28 実現すれば、和歌山県内就職を検討したかも知れないもの [n=12]

⑦ 将来的に和歌山県内(Uターン含む)就職について(単数回答)

□ 将来的に和歌山県内 (Uターン含む) 就職については、半数が「まだわからない」と回答している。

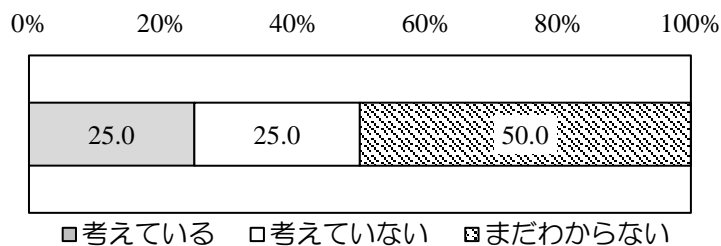


図 29 将来的に和歌山県内 (Uターン含む) 就職について [n=12]

⑧ どのような機会に和歌山県就職を考えるか(複数回答)※⑦で「考えている」と回答した人が対象

□ どのような機会に和歌山県就職を考えるかは、「出産するとき」が最も多くなっている (66.7%)。

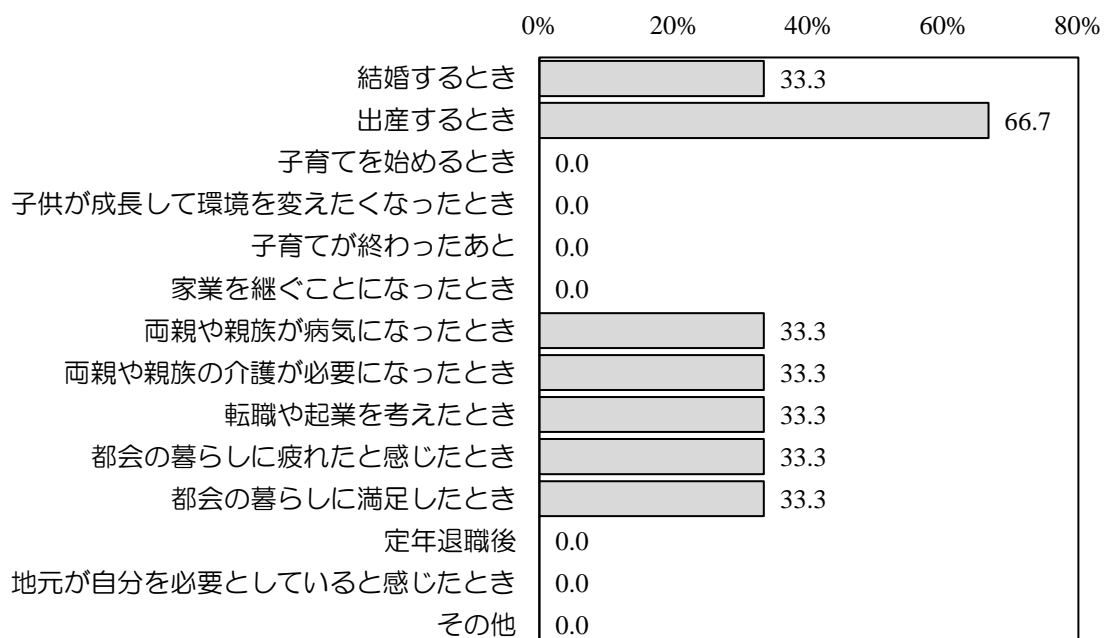


図 30 将来どのような機会に和歌山県就職を考えるか [n=3]

3. 参考資料

マイナビ（2022）『マイナビ 2023 年卒大学生 U ターン・地元就職に関する調査』
<https://career-research.mynavi.jp/wp-content/uploads/2022/05/s-Uturn23-005.pdf>

最終閲覧日 2024 年3月1日.

マイナビ（2023）『マイナビ 2024 年卒大学生 U ターン・地元就職に関する調査』
<https://career-research.mynavi.jp/wp-content/uploads/2023/05/s-UturnReport-24-001.pdf>

最終閲覧日 2024 年3月1日.

就職みらい研究所（2022）『大学生の地域間移動に関するレポート 2022—大学キャンパス所在地から見る、就職予定先所在地までのパターン—』

https://shushokumirai.recruit.co.jp/study_report_article/20220331002/

最終閲覧日 2024 年3月1日.

就職みらい研究所（2023）『大学生の地域間移動に関するレポート 2023—大学キャンパス所在地から見る、就職予定先所在地までのパターン—』

https://shushokumirai.recruit.co.jp/study_report_article/20230331001/

最終閲覧日 2024 年3月1日.